

GitanNews / 2016.2 号

技
短 news
No1

来て、見て、触れて、ものづくりの世界に
オープンキャンパス2016
たくさんの参加がありました！

平成 28 年 7 月 30 日（土）、31 日（日）に、オープンキャンパスを開催しました。まず、校長自ら、日本を取り巻く環境、変革と多様化の時代これから日本はどうなっていくか、ものづくりの世界では、いまどのようなことが起こっているか、本校の学科構成や教育の組立て、他校とはここが違う本校の教育環境、就職率 100% の秘密などについて説明しました。その後、指導担当から各学科の内容について説明した後、実際に各学科の教育環境について、設備の見学をしていただきました。設備見学では各科担当の先生と学生が説明し、高校生が熱心に質問する姿が見られました。各学科の見学や模擬授業を通して、本校の『一人 1 台を基本とする教育環境』『充実した実験・実習』についてご理解いただけたようです。



参加された学生の皆さんからは、「多種多様のロボットが面白く、また、先輩方の入学してからの感想を聞けて良かった」「CAD や図面を書くことの面白さが伝わった」「先輩方が気軽に説明してくださったのが良かった」等の感想をいただき、実際の学生生活の様子も伝わったようです。次回のオープンキャンパスは、技短祭（学園祭）と同時開催の 10 月 30 日（日）です。皆様のお越しをお待ちしています！



がんばろう熊本! がんばろう技短

情熱と技で、未来を拓け。 若年者ものづくり競技大会 in 宇都宮

機械製図(CAD)部門

川崎菜々子さん(精密機械技術科2年)敢闘賞受賞！

平成 28 年 8 月 7 日(日)～8 日(月)に栃木県宇都宮市で開催された『若年者ものづくり競技大会』の機械製図(CAD)部門において、本校の精密機械技術科 2 年の川崎菜々子さんが参加選手 25 名の中、敢闘賞を受賞しました。

若年者ものづくり競技大会は、20 歳以下の職業訓練生、高校生、専門学校生などの若者が参加してものづくりの技能を競う大会であり、今回 11 回目を迎えます。本校からは、川崎さんの他、『旋盤』部門に宮崎裕貴さん(精密機械技術科 2 年)、『フライス盤』部門に幸野真斗さん(精密機械技術科 2 年)、『電子回路組立て』部門に瀬口真由さん(電子システム技術科 2 年)が出場しました。惜しくも賞は逃がしたものの、3 人とも大会に向けて毎日授業終了後暑い中、練習を重ねてきました。その努力は、これから就職していく彼らの力になることと思います。



機械製図(CAD)部門
精密機械技術科 2 年
川崎菜々子さん

大会が終わったら課題の事はもう考えないと思っていましたが、図面を見る度にミスを見つけてしまい、不安になりました。次の日に結果が出て名前を見つけても喜んでいいのかという思いでした。もっと練習しておけば良かったと少し後悔しています。



旋盤部門 精密機械技術科 2 年 宮崎 裕貴さん

先生方には、毎日夜遅くまで熱く指導して下さい、ありがとうございました。実際に参加して、全国のレベルを肌で感じると共に、自分の未熟さを痛感しました。今後の長い人生の中で、常に上をめざし、最高の結果を残せるよう、身につけた事を生かしていきます。



フライス盤部門
精密機械技術科 2 年
幸野 真斗さん

今回大会に参加するにあたり、沢山の方々に支えていただき本当に感謝しています。結果は不甲斐ない形になってしまいましたが、これまでの努力は、今後の自分にとって大きくプラスになったと思います。全国大会はとってもいい経験になりました。



電子回路組立て部門

電子システム技術科 2 年 瀬口 真由さん
私が出場した電子組立て部門は、ハードとソフトの技術の競いでした。挫折しそうな時の友人の励ましや、電子の先生方のアドバイスで無事大会に出場し、全国の技術者と競うことで私の技術の未熟さに気づかされました。今後この経験を糧にし、自分なりに成長して行きたいと思っています。

学生はボランティア活動で頑張っています 「江津湖クリーン作戦」と ロボット競技大会「WR02016 熊本大会」

ボランティア

熊本地震後、多くの学生の生活環境は変わりました。大きな被害を受けて仮設住宅から通学している学生、道路が寸断された阿蘇方面から長時間かけて通学している学生、一部損壊した自宅から通学している学生等。そんな学生も今、自分たちができることは何かを考えながら、活動をしています。その中から二つのボランティア活動を紹介します。

◆大学コンソーシアム熊本のボランティア活動「江津湖クリーン作戦」

7月9日（土曜日）朝10時から、県内14の大学で構成される大学コンソーシアム熊本の江津湖クリーン作戦があり、250名の参加がありました。本校からも80名の参加があり、3班に分かれて他大学の学生と協力しながら一緒に作業をしました。

この日は立っているだけで汗が背中を流れ落ちるほどの高い気温と湿度の中、親子連れに人気のある下江津湖の湧水広場を草刈りしました。このボランティア活動は、江津湖をきれいにすることが目的の一つですが、他校との交流という目的もありました。

本校の取りまとめを担当した情報システム技術科2年の定村涼太郎さんに聞いてみました。

◇ボランティアに参加しようと思った理由は？

定村さん「他の大学との交流もあり、できないところを他の人が補うという協力していくことの大切さを学びました。また、この活動は清掃活動なので自分がしたことが「キレイになった!」と目に見えて分かり、達成感も得られました。なんといってもこの清掃活動で熊本がきれいになることが一番大事だと思いました。自分もそれがうれしいですし、そんな気持ちでボランティアをやっています。」

◇初めて参加の1年生はどうでしょうか。

内田翔太さん（電子）「初めは他校の女子大生とも交流ができるかなという軽い気持ちがあって参加したのですが、思いのほか作業が楽しくて熱中してしまいました。江津湖がきれいになることで、子どもたちの笑顔が見られるならそれでうれしいです。」

参加した学生は、それぞれの想いで参加したようですが、ボランティア活動後には満足した様子でした。今回の清掃活動で、江津湖の水面も澄み切って見えるようになり、子どもたちの恰好の遊び場になった湧水公園。休日には、多くの親子連れが訪れていました。



◆国際ロボット競技大会 WR02016 熊本大会

世界の小中高校生が参加する国際ロボット競技会「World Robot Olympia」の熊本地区予選会が、8月21日（日）に熊本大学百周年記念館で開催されました。

今年のテーマは「Rap The Scrap!」。ゴミ問題に取り組むロボットが各部門のミッション。課題は年々難しく

なっているようです。この日をめざして、夏休みの間もロボットのプログラミングに頑張ってきた多くの小中学生が参加し、その性能を競い合いました。

本校からは菅原主任講師が実行委員・審査員として、情報システム技術科の学生8名が運営スタッフとしてボランティア活動を行いました。準備の段階からボランティアに入っていた坂本浩太さん(2年)は、「中学生の出場選手の練習の様子を見ていたのですが、アイデアも良く、チームワークも良かったので応援していました」。審判をしていた本田海斗さん(2年)は、「僕たちも3人でチームを作って挑戦してみたのですが、出場のみんは、アームの形やセンサーの読み取りなど違ったアイデアもあって、すごく工夫されているなと思いました」。ここから未来を創造していく若者たちが育っていくことを私たちも期待しています。



技短 news No4

技短、花いっぱい作戦！



ボランティア

技短の4月の桜は、セミコンテックパーク内でも綺麗だと評判をいただいています。そこで四季を通して技短が花で潤うよう、オープンキャンパス直前の7月20日(水)、4限目のホームルームの時間を使い、職員及び学生一緒になって校内の除草活動と花の種まきを行いました。「技短、花いっぱい作戦」の始まりです。

この日も、朝からすでに気温は30度を超え、外に出ただけで汗が吹き出しました。

本校の花咲かおじさんこと総務学生課吉田参事が、種の播き方について説明した後、各学科に分かれて、まずは雑草を抜き、そしてコスモスの種を播きました。きれいに一列に並んで植える科もあれば、思い思いに植えている科もありました。

11月の技短祭(学園祭)の頃は、きれいなコスモスが、来場者の皆さんを出迎えてくれると思います。本校の花いっぱい作戦は次のとおりです。近くにいられた際は、ぜひお立ちください。

❖ 技短花いっぱい作戦 ❖

- 4月 桜(校内)
- 7~8月 グリーンカーテン(A棟、C棟)
- 9月中旬 彼岸花(本正面)
- 9~11月 コスモス(校内)
- 11月 皇帝ダリア(本部棟玄関横)
- 11~4月 ビオラ(校内)



花いっぱい作戦近況報告

熊本地震の影響で、水道施設がやられて一部断水中であることに加え、猛暑続きで、コスモスの発芽にダメージを与えています。

はてさて、芽が出てくるのやら...

心はいつも降雨を希っている毎日です。吉田



自治会主催のスポーツ大会を実施しました 機械システム技術科2年が優勝！

自治会



熊本地震の影響で延期していました学生自治会主催の春季スポーツ大会が、7月23日（土）に開催されました。当スポーツ大会は全学生がスポーツを通して、クラス内外での交流を深めることを目的に毎年実施しています。開会式のあと、グラウンドでソフトボールの試合を行いました。4学科の学年（1年生・2年生）別対抗戦で、8チームが参加し、熱戦を繰り広げました。教職員もチームに参加し、共に汗を流しました。数々の好プレイが生まれ、学科の友人を応援する大きな声が響き、活気にあふれた1日になりました。

Aブロックからは機械システム技術科2年が、Bブロックからは機械システム技術科1年が勝ち上がり決勝を戦いました。決勝戦は、機械2年が先行する形でしたが、機械1年が途中同点に追いつくなど見ごたえのあるゲームとなり、最終的には機械2年が6対4で優勝を勝ち取りました。天気にも恵まれて学生・教職員が一緒になってスポーツに親しむ機会を持つことができました。



優勝：機械システム技術科2年



準優勝：機械システム技術科1年

学び舎の道

ナカヤマ精密(株) 熊本工場顧問
三津家 敏幸 さん

本校の非常勤講師として精密機械技術科の機械加工実習で指導をいただいている三津家敏幸さんは、金属加工における手仕上げのプロフェッショナル。1991年には厚生労働省の「現代の名工」に選出され、2005年には「黄綬褒章」を受賞されています。

◆ナカヤマ精密では、どのようなことに取り組まれていますか？

ナカヤマ精密(株)は、半導体や液晶関連精密部品、自動車や医療機器、ロケットなど宇宙・航空機器部品等を手がける会社です。一品一様なので、高精度な加工の中にも特殊な加工があるので、技術の継承として『三津家道場』を開き後進を育成しています。

機械でできないことも、人の手はできる

私は日頃から、「できないことはないよ！機械ではできなくても手ですればできる。」と話しています。今は即戦力を優先してマシニングセンターにまず頼ったりしますが、基本は人の手です。基本を飛ばして応用で行くのは、それはどうかと思います。現代の文明の利器マシン

グセンターの能力以上が求められるコンマいくつの針の先端の部分、人の手は磨くことができるのです。これが、技術のブレイクスルーの基本です。

◆先生は、いくつの時に「ものづくりの世界」に入りたいと思われましたか？

子どものときからものづくりが好きで、小さいころは大工さんになりたかったです。中学生の時に、より専門的な所で学びたいと思いNECの専門学校に入りました。技能五輪にも出場し、19歳の時に惜しくも優勝を逃した苦い経験がバネになって、今の自分があります。

◆技短の学生にメッセージをお願いします。

プロ意識を早く持つことが大事です。社会に出たら自分の技術で金を稼がないと役に立たない。そこに気づかず漫然と過ごす人も多いのでは。潜在能力は誰もが持っています。いつスイッチが入るかで大きな差がついていきます。

学校の中で何を学ぶか、何を身に付けるか、どうするとマスターできるかを考えて授業に臨んでほしいと思います。



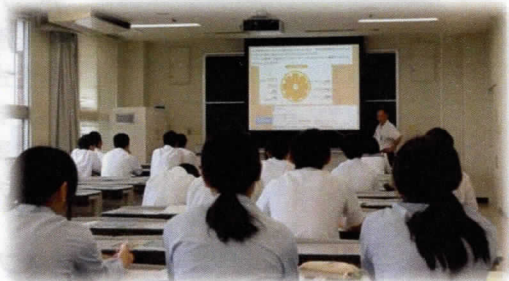
「学び舎の道」では、本校に企業等から来ていただいている非常勤講師の方をご紹介します。

大学コンソーシアム熊本進学ガイダンスセミナーに参加しました 熊本学園大学

7月3日（日）、熊本市中央区の熊本学園大学で、熊本県内の14大学で構成する大学コンソーシアム熊本主催の「進学ガイダンスセミナー2016」がありました。

本校も模擬授業と相談コーナーに参加。模擬授業では、4つの科目に300名を超える高校生の皆さんの参加がありました。

精密機械技術科の模擬授業は、河邊教授の「デジタルものづくりの新時代」。現在開発が進んでいる3Dプリンターや3Dスキャナーについて紹介し、本校学生が設計製作した3Dプリンターの実演を行いました。



機械システム技術科は、釜田准教授の「気になりませんか！！日用品の作り方」。みかんの缶詰や口部分が折れて飲みやすいストローなど身近な日用品全てが機械化された工場で生産される様子を動画で見ました。身近な日用品からの紹介であったので、高校生の皆さんも興味津々の様子でした。また女子学生の姿も目立ちました。

電子システム技術科は、江口准教授の「1兆個のセンサーがつくる世界」では、赤外線や超音波を使ったセンサーの原理を実演を交えて説明し、現在、世界で100億個使われているセンサーは2023年に1兆個になること、その利用範囲は医療メディスン、ヘルスパッチ、自動運転などに広がることを紹介しました。自動運転では、本校の学生が製作したライントレーサーも紹介しました。



情報システム技術科の糸川准教授の授業「スマホアプリを作ってみよう」には100名を超える参加がありました。実際にスマホを使ったゲーム作成に挑戦しました。

各会場、授業が終わってからも熱心に質問する高校生の姿が見られ、熱気あふれる進学ガイダンスとなりました。

第10回科学の祭典 in 菊池に参加しました 未来の理系男子、理系女子がここから生まれる！

菊池市文化会館

地域貢献

7月23日（土）、菊池市文化会館で菊池市内の小中学校の理科教諭と児童・生徒によるジュニアスタッフが運営する科学の祭典が開催されました。会場には保育園児から小中学生までたくさんの子どもたちでいっぱいになりました。

会場ではまず、「菊池のでんじろう先生」と偶倉先生による身近にあるドライヤーや掃除機等を使った実験の数々が披露され、子どもたちからは「わぁー」と歓声があがり、すっかり実験のとりこになったようです。その後、参加者は会場内に設けられた「宇宙生物を作ろう」「巨大シャボン玉づくり」「バランスとんぼ」などの各ブースに移動。それぞれが科学やものづくりの楽しさに挑戦していました。



本校のブースは福永教授と田崎教授が担当。「ストローで作る多面体」と荷造りテープを使って作る「ムーブフォーム」に小学生が挑戦しました。

昨年この会場で技短コーナーに足を運んでくれた小学3年生の男の子が、今年も真っ先に挑戦してくれました。ものづくりにとても興味があるそうです。小さいときから、このようなものづくりの体験をすると世界が広がりそうです。



技短 news No8

翔陽高校保護者会、 御船高校保護者会の訪問がありました

6月25日（土）、熊本地震後初めての高校保護者の本校訪問として、翔陽高校保護者会の訪問がありました。また、8月19日（金）には、御船高校保護者会の訪問がありました。

校長が、本校の特徴を説明した後、担当者の案内で学校内を見学していただきました。「少人数制」、「一人一台の学習環境」の良さをご理解いただいたようです。

保護者の皆様からは、施設見学の移動中に各科の具体的な取り組みや就職試験について、また最後の質疑応答では、卒業生の進路や仕事についての質問があり、保護者の皆様が子供の教育を熱心に考えていらっしゃる様子が伝わってきました。

この様に、本校では、高校生のお子様をお持ちの保護者の方向けに学校見学会を開催しています。本校は、熊本県の産業界を担っていく人材を育成するために設立された学校です。講義だけでなく充実した実習環境により、2年間という短い期間ですが、ものづくりに関する理論と実践技術を習得することができます。

「どんな学校か興味がある」という方はお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせは 総務学生課 TEL096-232-9700



平成 28 年度保護者会総会を開催しました

本校大講義室

例年は 5 月下旬に開催していた保護者会総会を、熊本地震の影響で体育館等が使用できなかったため 6 月 12 日（日）に開催しました。熊本地震の被害で大変な状況の中、100 名を超える参加がありました。

総会では、熊本地震による本校及び本校学生の被害状況、支援の各種手続きについて説明した後、平成 27 年度の事業報告及び決算報告、平成 28 年度の事業計画及び予算案を承認いただきました。

また、企業等関係機関から熊本地震に伴う学生に対する支援として寄付金の申し出をいただいていたため、保護者会の会計に寄付金を受け入れる会則の改正案を提出し、承認を得ました。

総会の後、校長から、本校の現状と取組みについて説明し、各クラス単位で担任との懇談会を行いました。保護者の皆様からは就職に関する相談等が寄せられたようです。

今年度の保護者会の新体制は右記のとおりです。

学校（技短）と保護者会の両輪で学生の支援に取り組みたいと思います。



役 職	氏 名	学 生 学 科
会 長	芹 川 勇	電子システム技術科 2 年
副会長	中 尾 雄二	情報システム技術科 1 年
理 事	狩 川 みどり	精密機械技術科 2 年
	長 谷 部 式代	情報システム技術科 2 年
	窪 田 宏之	機械システム技術科 1 年
	川 端 浩美	電子システム技術科 1 年
監 事	丸 林 直美	機械システム技術科 2 年
	田 端 真美	精密機械技術科 1 年

熊本地震 速報第2弾！

熊本地震の影響により、今年の夏休みは、8 月 15 日（月）から 8 月 26 日（金）までの 2 週間となりました。復旧状況は、建物に関しては体育館の使用停止、玄関・セミナー等玄関・食堂棟のガラスの破損、外壁の亀裂などの損傷に対して、現在調査が入っている状況です。設備についても大きな被害を受けましたが、企業の皆様のご協力により点検等も迅速に対応していただき、授業ばかりでなく、『技能検定』についても例年とほ

ぼ変わらない日程で実施しています。

また、地震発生後から多くの皆様にご支援や励ましの言葉をいただきました。県立学校であることから、申し出によってはご辞退しなければならなかったこともありますが、

- ◆多くの企業の皆様から：「大丈夫でしたか？何か協力することはありませんか？」と励ましの言葉と支援の申し出、
- ◆周辺の市や町から：励ましの言葉と被災した学生の下宿探しに関する情報提供、
- ◆長崎県諫早市の市民団体から：本校の非常勤講師町田進先生を通じて、学生の支援を目的として保護者会に義捐金、
- ◆3 月に日韓 4 者 MOU を締結した韓国から：熊本県工業連合会を通じて大邱機械協同組合から緊急給水袋の提供、永進専門大学国際処長と韓日交流センター長から学生への激励と国際交流ものづくり教育プログラムの相談、
- ◆東日本大地震で大きな被害を受けた工具メーカーから：2011 年の 3.11 で被災した際に熊本から受けた様々な応援に対して、感謝と激励の気持ちを込めて本校を含めた熊本の教育機関に励ましと教育資材の提供など、すべてをご紹介することはできませんが、応援していただいた多くの皆様方に厚くお礼申し上げます。皆様のご支援のもと、技短は復旧に向けて一步一步進んでいます。

熊本県立技術短期大学校
情報誌 No.33

平成 28 年 9 月発行
編集 広報委員会

〒869-1102

菊池郡菊陽町原水 4455-1

Tel 096-232-9700

Fax 096-232-9292

URL <http://www.kumamoto-pct.ac.jp/>

E-mail kpct@kumamoto-pct.ac.jp